



萩観察
南光内

(昭和廿九年改版)

萩市役所

萩市立図書館

系資料
20

ミスヌマ



萩市観光案内

(昭和廿九年改版)

萩市後所

萩市立図書館

萩市観光案内
120

萩市観光案内

萩市の概説

萩市は阿武川が日本海に注ぐ松本川、橋本川の二支流に抱かれた三角洲を中心に発達した下町である。慶長九年(1604)毛利元就の墓が指月山に葬城を築き、以来、幕末に至る三百年間防長両国の首都として繁栄を続けたが、維新後一時衰退した。明治二十二年町制施行により萩町となり、昭和七年七月一日市制を布き、山陰本線の全通、開港に伴う物資の集散、漁港の活用等によって、今や山陰沿岸における重要都市として発展し、人口四万二千余を有し、近代都市として目覚ましい建設の歩を進めている。

三百年間防長両国の中心として文化の麗しい花を咲かせ、幾多の史蹟と名勝を存し、風光明媚と相俟って世に高く遊子を楽しませている。

史蹟指定

松本川、吉田松陰因田宅、伊藤博文並、木戸孝允旧宅、旧藩御殿、反射炉、明倫館水練池と館碑、有備館、萩城址、天然記念物指定

明倫池、笠山コウライチバナ自生地、大部の大センドン

國寶指定

志都岐山神社所蔵延喜、光曆銘二振太刀、大照院所蔵赤童子像、南明寺所蔵木彫觀世音菩薩、鶴土千手觀音の二像



萩城の解体前

志都岐山神社と指月公園

明治十二年の創建に始まり、元就廟まで以下歴代の藩主を祀り、社殿隆盛である。

指月公園は旧木丸の一部で、桜花のこころなれば山桜に映じた葉は春につくしがたく、園内一木一草を誇つてゐる。開園指の箇所である。

花之江茶亭

藩主御殿(本邸)は家臣を受け、文武を勵み、明治維新の際、この茶亭で、家臣と藩に格式を捨てて茶事に托し防長開闢の勲を慕ひ、明長相遇の所とせられた。実に防長開闢の大事業の策源の亭である。



尤旧宅

女台場と新々亭

藩士は多く下関方面に赴き、守るの心算を示したお台場(天下)に名高い女台場である。



明倫館水練池と館碑

明倫館水練池と館碑

明治維新を覆した旧家有力の材人多くこの学館から出た。東四〇米、南北一六米、深三二米日本最古のプールと称せられてゐる。

館碑は新田二基あつて、一は元文六年(二二三年)山原周南、一は嘉永二年(一八五〇)山本大輔の撰文、建造式の趣旨、館の結構、教育の方針が誌されてゐる。

有備館

享保年間(一七五〇)創建の旧明倫館の剣道場を移築したもので他国修業剣術引請書又は藩主武芸上覧の場所として用いたが後に船生の武芸練習場として使用せられた。

館は新田二基あつて、一は元文六年(二二三年)山原周南、一は嘉永二年(一八五〇)山本大輔の撰文、建造式の趣旨、館の結構、教育の方針が誌されてゐる。



住吉神社と御船話

反射炉

伊は式武器と練瓦を以て築かれ、基礎部は長方形で上部は漸次狭小となり、分けて二本の煙突となつてゐる。

安政六年(一八五三)の築造で備化作用に用いられたものだといはれる。



松陰神社

松陰神社

萩藩の藩主松平定信が、藩士吉田松陰先生を祀つたので、明治二十二年(一八八九)に、藩士吉田松陰先生の墓を、この地に遷す。藩士吉田松陰先生の墓を、この地に遷す。藩士吉田松陰先生の墓を、この地に遷す。

市内観光コース

- 玉江驛 萩城址、指月公園、木戸孝允旧宅、明倫館、川島島、松陰神社、松下村、松陰先生墓、伊藤博文旧宅、反射炉、明倫池、笠山、東萩、大照院、以下前コース
- 東萩驛 東萩、松陰神社、松下村、松陰先生墓、伊藤博文旧宅、反射炉、明倫池、笠山、東萩、大照院、以下前コース
- 市外自動車線
 - 萩 - 小郡 一時間三十分
 - 萩 - 山口 一時間三十分
 - 萩 - 山形 一時間三十分
 - 萩 - 長門 一時間三十分
- 市内自動車線
 - 吉田町 - 玉江驛 十分
 - 吉田町 - 越ヶ浜 二十五分
 - 吉田町 - 大谷 十分

金谷天満宮と大名行列

文治年間(一一一三)佐々木四郎高綱が長門守職となり、一社の總領守社として太宰府から勤請した。社殿宏壯松老天に参し而して御殿である。古より祭礼には大行司、小行司、手廻備の大名行列が繰り出され有名行事である。



木部の大セندان

大照院

延暦年間(一〇〇〇)の創建で勅願寺の別荘であつたが久しく荒蕪してゐた。承応年間(一六六二)藩主秀成が、御所と定められ、爾來東光寺と共に毛利家の別荘となつた。静閑幽邃にして老梅多く、楓の名所、院の院門は登臨の勝に富み市街を一望に収む。



南明寺

玉江観音院

大同年間の創建と伝えられ久しく荒蕪してゐたが、永徳元年(一一六三)に再興された臨濟宗に属してゐる。本堂に彫られた観音様が、春霧の内に第一番の札所である。

庭園が、春霧の内に第一番の札所である。庭園が、春霧の内に第一番の札所である。



倉江の浜と小原海岸

雲谷等類

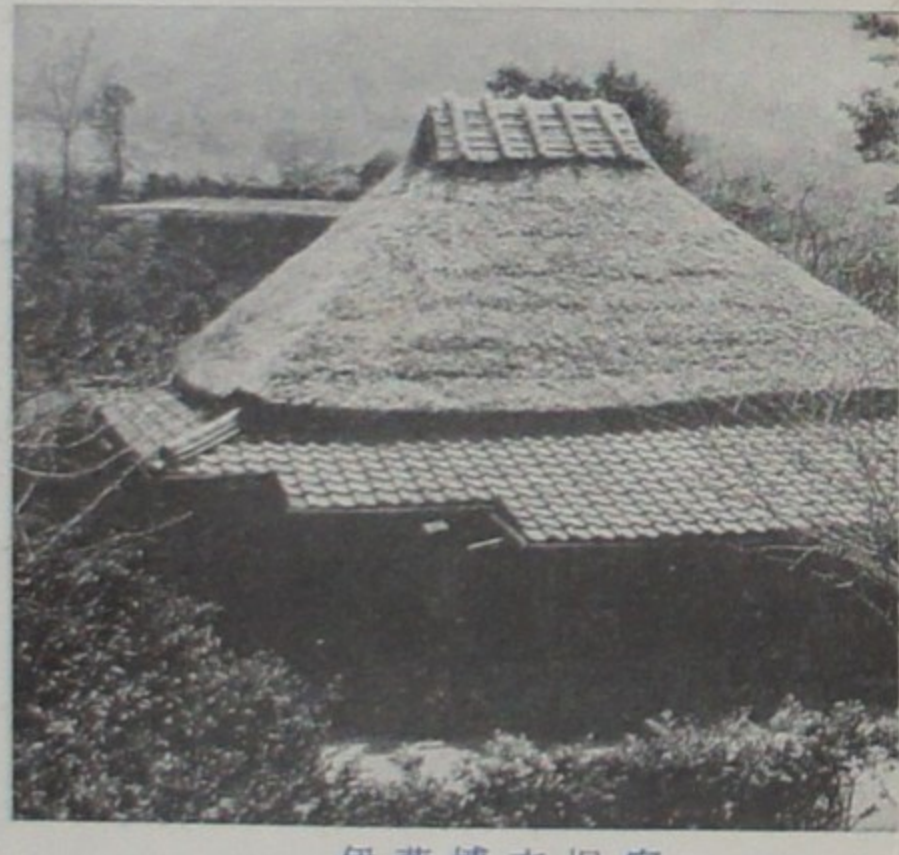
萩市観光案内



松陰先生誕生地と名士の墓



伊藤博文旧宅



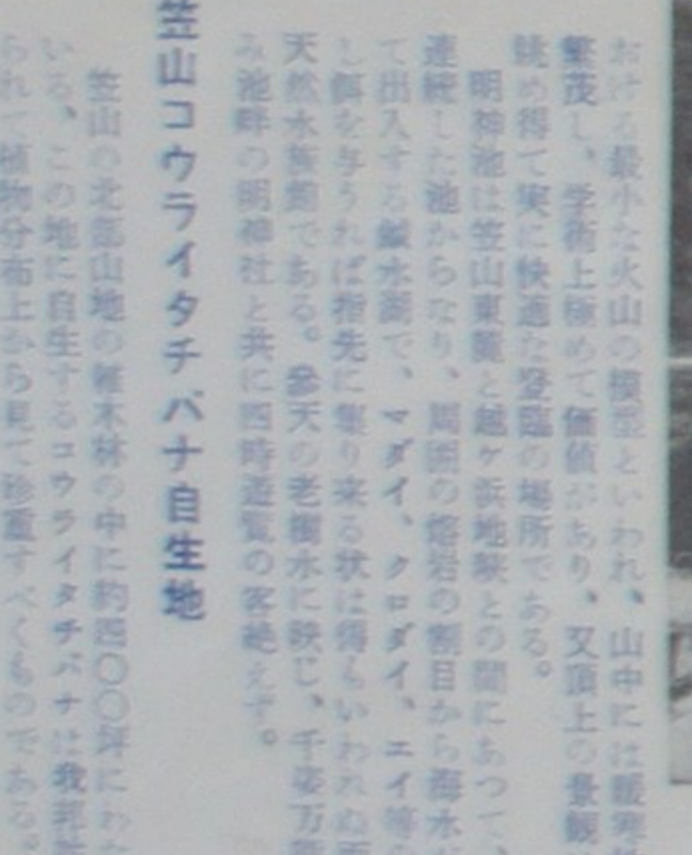
東光寺

旧萩藩御船蔵

萩城の築かれて間もなく造られた藩主の御坐船の御船蔵で、大小各二個あつて巨大な石を以て築造され、瓦葺屋根を有し、今は大小二個の一個が残り、重宝すべき当時の記念物である。



笠山と明神池



笠山コウライチバナ自生地



史蹟名勝其の他

番号	名	番号	名
1	志都岐山神社	15	花月楼
2	花之江茶亭	16	武宜基神社裏地
3	天樹院址毛利卿宅跡	17	日東製紙会社工場
4	玉江青年宿	18	船岡毛生丹古士之墓
5	好生館	19	甲子殉難烈士墓
6	本願寺別院	20	山口県農産物加工工場
7	海潮寺	21	山口県産物地産所
8	河野神社	22	鉄クレーン商会
9	南園假址	23	福善局製出所
10	長防国民合衆製印刷所址	24	門司製鋼製出所
11	防長自動車会社	25	比賣屋河石碑
12	萩商工会議所	26	萩警備隊所
13	萩製紙株式会社	27	昭光クレーン会社

萩市観光案内

萩市の概説

萩市は阿武川が日本海に注ぐ松本川、橋本川の二支流に抱かれた三角洲を中心に発達した城下街である。慶長九年(約三五〇年前)毛利輝元卿(第三代)が指月山に萩城を営築して以来、幕末に至る三百年間防長兩國の首都として繁栄を続けたが、維新後一時衰退した。明治二十二年町村制施行により萩町となり、昭和七年七月一日市制を布き、山陰本線の全通、開港に伴う物資の集散漁港の活用等によつて、今や山陰沿岸における重要都市として発展し、人口四万二千余を有し、近代都市として目覚ましい建設の歩を進めている。

三百年間旧長州藩の中心として文化の麗わしい花は咲き、幾多の史蹟と名勝を存し、風光清純明媚と相俟つて世に名高く遊子を楽しませている。

史蹟指定

松下村塾、吉田松陰幽囚旧宅、伊藤博文並、木戸孝允旧宅
 旧萩藩御船蔵、反射炉、明倫館水練池と館碑、有備館、萩城址

天然記念物指定

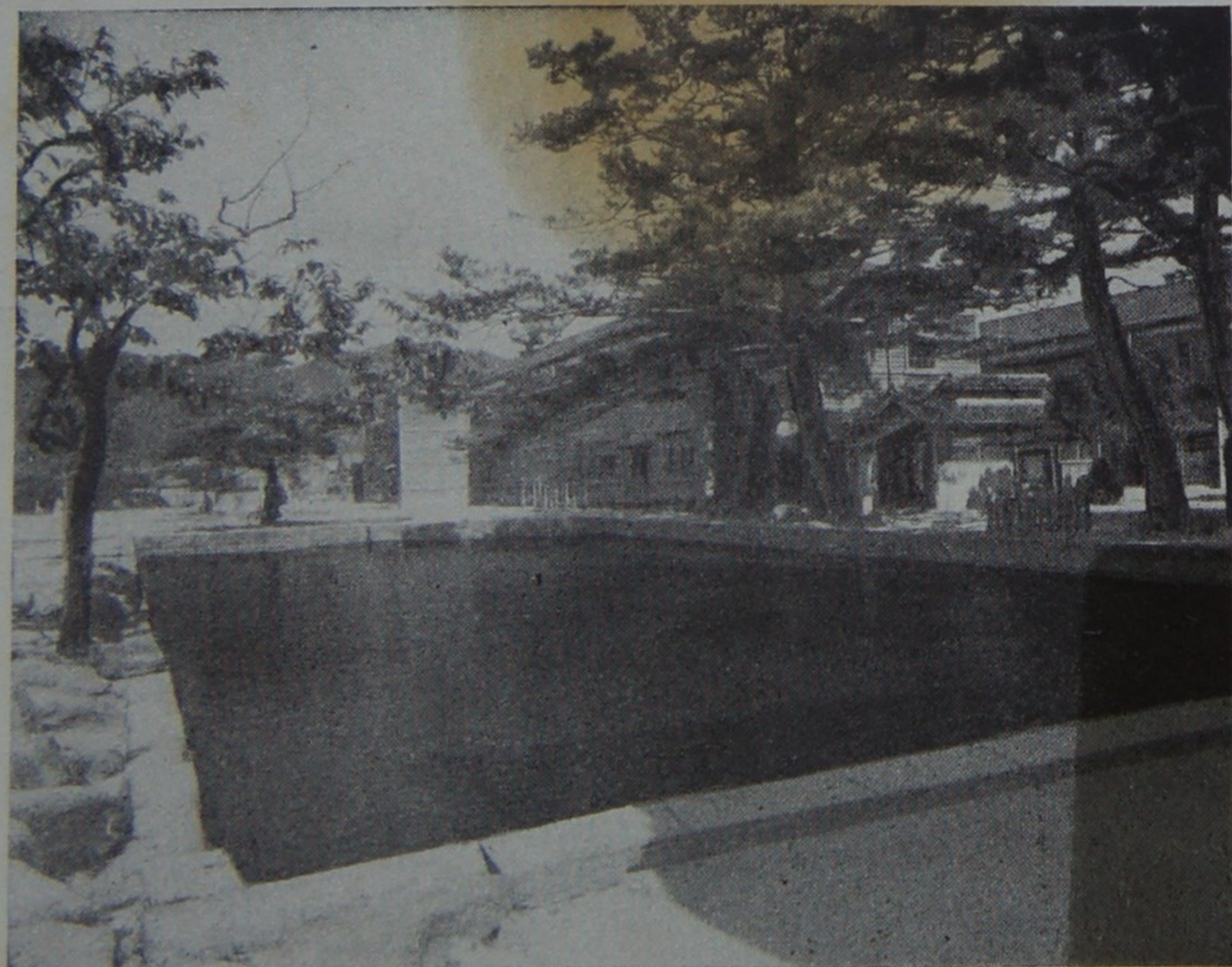
明神池、笠山コウライタチバナ自生地、木部の大センダン

國寶指定

志都岐山神社所蔵延吉、光房銘二振太刀、大照院所蔵赤童子像、南明寺所蔵本尊観世音菩薩、脇土千手観音の二像

や藩士は多く下関方面に赴いたが中心となつて、海辺に土塁を築いて女性の心意気を示したお台場こそ天下に名高い女台場である。

萩関
1



明倫館水練池

藩賢明倫館址

藩主吉元卿(第八代)が享保四年(一三三五年)萩城第三廓内に建てられたが、敬親卿は嘉永二年(一〇五年)江向に移築拡張せられ、その規模結構は壮大で、和漢洋の学術を研修せしめ天下にその比を見ずの比を見ず

明倫館水練池と館碑

明治維新を翼賛した国家有為の人材多くこの学館から出た。藩後解体したが今尚ほその遺蹟が残っている。

館聖廟の後に池を掘つて水騎の練習場とし、又用水にも用いた。東西四〇米、南北一六米、深さ二米日本最古のプールと称せられている。

館碑は新旧二基あつて、一は元文六年(一三二二年)山県周南、一